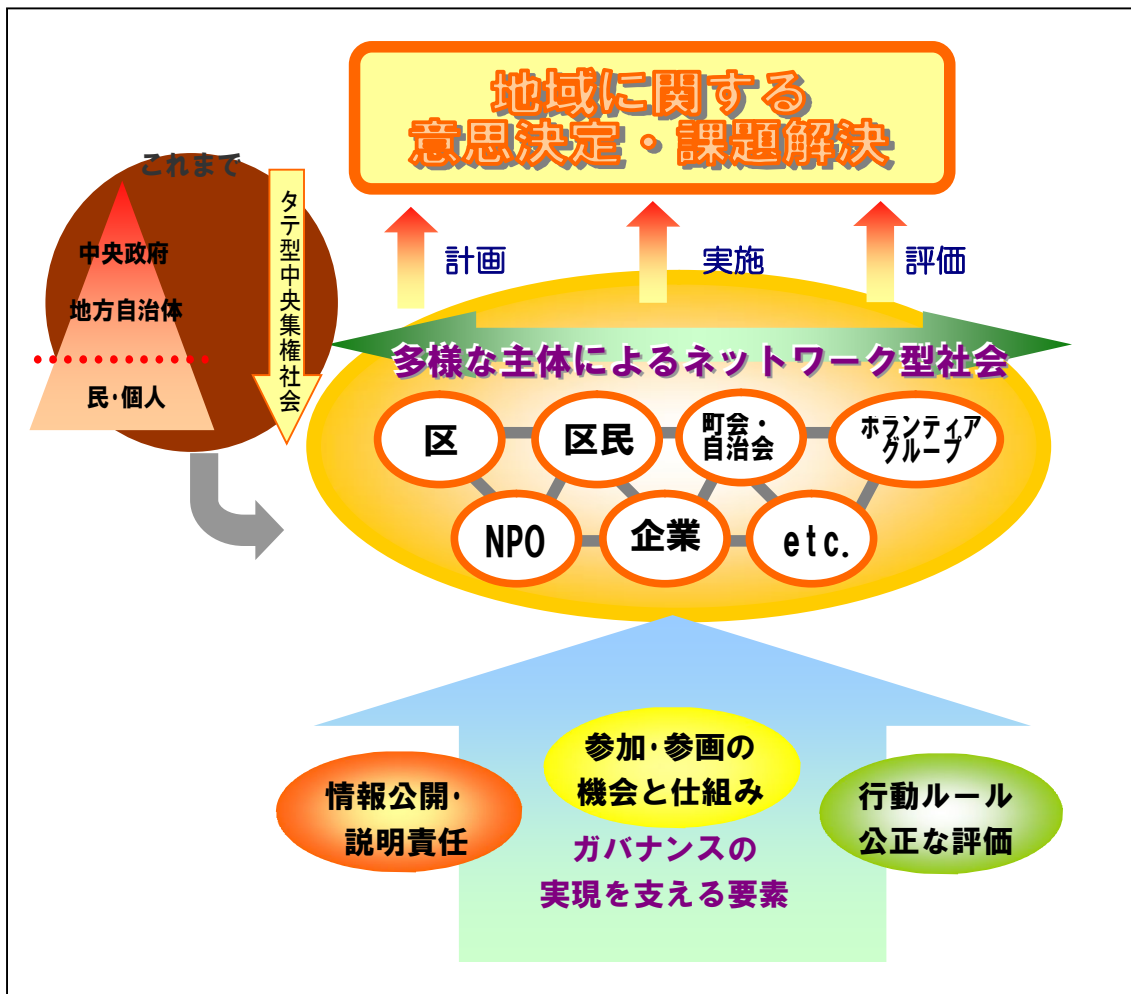


(仮称) 墨田区協治（ガバナンス）推進条例検討にあたっての基本的な考え方

1. 協治（ガバナンス）によるまちづくりの基本理念

墨田区における「協治（ガバナンス）」とは、地域社会運営の仕組みであり、「区民、地域団体、NPO、企業、区など多様な主体が、それぞれ果たすべき責任と役割を自覚しながら、ともに考え、行動することで、地域の課題の解決を図ろうという社会のあり方」である。



「墨田区協治（ガバナンス）の仕組みづくり検討委員会報告」より

※ 上記「区」とは、区議会並びに区長、その他の執行機関を示すものである。

2. 協治（ガバナンス）に必要な3つの力

3つの力ですみだを変える。
あなたの参加ですみだが変わる。

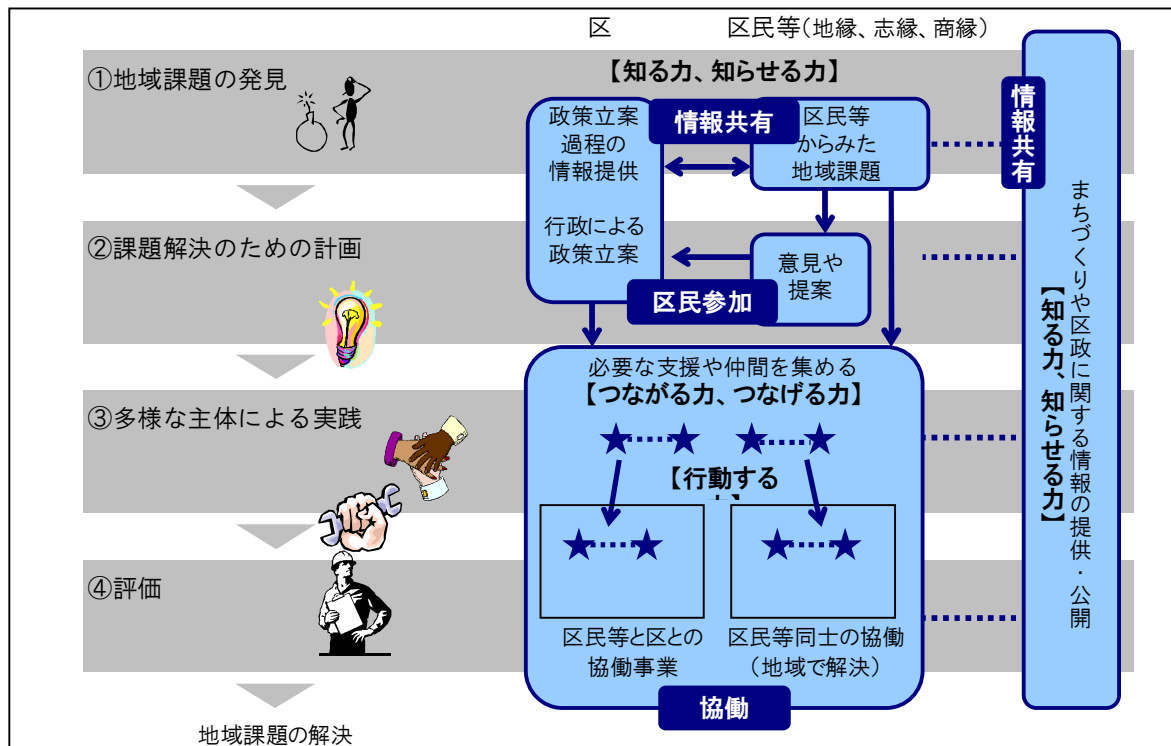
協治には、必要な3つの力があります。これは、区民、地域団体、NPO、企業、区などそれぞれが持っているものです。みんなが協治によるまちづくりの主役なのです。

●**知る力**
協治によるまちづくりは、まずなにが地域の課題なのかを一緒に考えることから始まります。そのためには、一人ひとりがさまざまな方法で、生きた情報を**知る力、知らせる力**をもつことが大切です。
そして、必要な情報が共有されていることが前提となるため、多くの情報を持っている行政機関や団体、組織などには特に**知らせる力**が求められています。

●**つながる力**
みんなが協治によるまちづくりの主役になるためには、だれかに役割がかたよるのではなく、それぞれの良いところを見つけて活かせる上手な仲間づくり、すなわち**つながる力**が大切です。
また、それを支援する行政機関や地域のリーダーには、コーディネーターとしての**つなげる力**が求められています。

●**行動する力**
地域の課題と仲間を見つけたら、できることから行動する。**行動する力**で、より**知る力**がアップする。このサイクルで人もまちも元気になります。
そのためには、誰もが行動できるよう参加の機会が開かれていることが重要です。

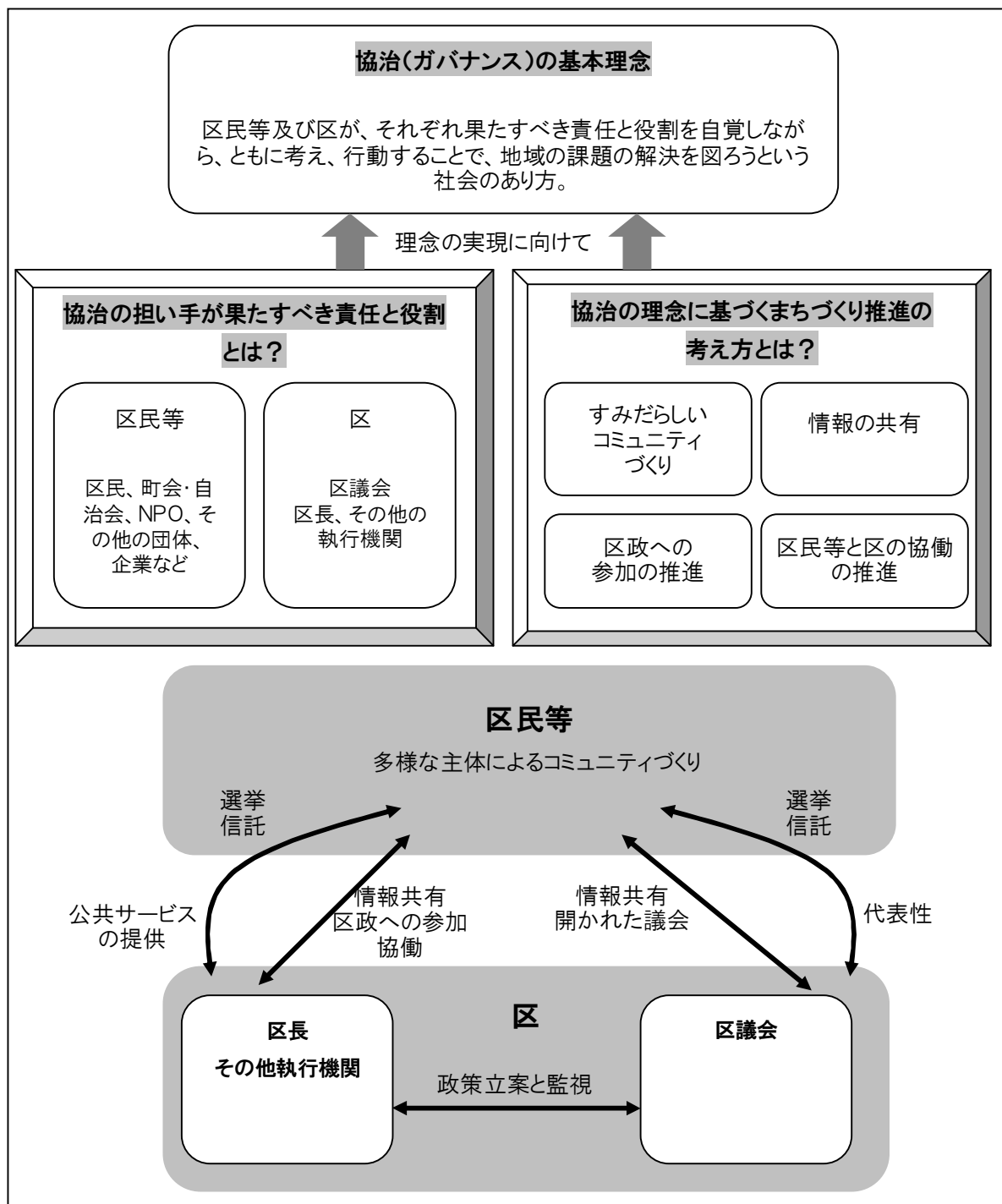
「墨田区協治（ガバナンス）ガイドブック」より



3つの力による地域課題の解決

3. 協治（ガバナンス）推進条例の枠組み

- ・ 協治（ガバナンス）の理念の実現に向けて、多様な主体がそれぞれ果たすべき役割と責任を明確にする。
- ・ 協治（ガバナンス）の推進に向けて、多様な主体がともに考え、行動するための考え方、手段、制度等を明確にする。



4. 条例と基本構想の関係

